

【原子力基本法の改正をどう評価するか】

# 日本のエネルギー安全保障と国家安全 保障を強化するために原子力推進

金子 熊夫(外交評論家、元外交官)

2024年5月10日 福島原発行動隊講演集会(院内集会)

# 自己紹介を兼ねて “へそ曲がり人生”

- ・元々典型的な文系人間。安保闘争世代で外務省へ。偶然科学技術・環境・エネルギー分野に。人生不如意・塞翁が馬？
- ・最初はベトナム戦争反対派。サイゴン勤務中に「テト攻勢」（1968年）で死線を体験し開眼。「戦争と平和」。
- ・環境問題では日本の草分け。公害から環境への意識革命を主導、「かけがえのない地球」、環境庁の生みの親、ストックホルム会議（1972年）、UNEPに出向4年半。
- ・第一次石油危機（1973年）に遭遇、無資源国の悲哀を味わい、環境派から原子力重視派に転向。「変節と変説」
- ・3.11以後は原子力村の私設応援団長風に原発復活を支援中

# 重要な年表(歴史的背景)

- 1945 原爆(マンハッタン計画)
- 1953 平和のための原子力(アイゼンハワー)
- 1957 国際原子力機関(IAEA)創設
- 1964 中国核実験
- 1970 核不拡散条約(NPT)発効
- 1972 国連人間環境会議(ストックホルム)で環境ブーム
- 1974 インド核実験
- 第4次中東戦争→**第1次石油危機**→脱石油のエース原子力
- 1977 カーター核不拡散政策、「国難来る！」日米原子力交渉
- 1979 TMI原発事故、第2次石油危機、イラン革命
- 1986 チェルノブイリ原発事故

- 1990 ソ連崩壊、冷戦終結、湾岸戦争、日本バブル崩壊
- 1997 COP3（京都議定書）、温暖化問題クローズアップ
- 2001 同時多発テロ、「第2次冷戦時代」
- 2011 **福島原発事故**
- 2015 パリ協定、イラン核合意
- 2022 ウクライナ侵攻→対ロシア制裁→露産ガス輸入停止
- →**エネルギー危機**→**原発復権の動き**
- EUタクソノミー（原発容認）、ドイツは原発全廃
- 2023 パレスチナ（ガザ）紛争
- COP28 **再エネ3倍増（原子力3倍増?）**
- 日本GX政策（原発新增設、運転期間延長、基本法改正）
- 2024 イランvs.イスラエル紛争、米大統領選？ 柏崎刈羽？

## • 現状認識

- ウクライナ戦争後のエネルギー危機→エネ安全保障（石油危機の教訓）→再エネ・原発重視が国際的傾向
- COP28による温暖化対策・脱炭素化加速→カーボンニュートラル2050、「再エネ3倍増」、原発3倍増？
- 日本のGX政策（**再エネの主力電源化と原子力最大限活用**＝再稼働、運転期間延長、新增設）基本法改正
- 福島原発事故の後遺症、被災者救済、賠償、廃炉。
- 能登半島地震の影響、反原発ムード蔓延、地方自治。
- BWR再稼働なるか？ **第7次エネルギー基本計画**

## 当面の課題と対策

- 再エネ（とくに風力、太陽光）の拡大、グリッド、蓄電池
- 原子力発電の拡大：既存炉（BWR）の再稼働（柏崎刈羽、女川、島根、浜岡等）、**新增設、次世代革新炉**（SMR、HTR等）、**廃炉、HLW処分場、六ヶ所再処理工場、中間貯蔵（上関）。**
- 核燃料の確保（露産濃縮ウラン→国産燃料）、プルサーマル
- 安全性の更なる改善、そのための研究開発と人材育成
- 「**エネルギー安全保障 = 自給率向上 = 国家安全保障**」 学校教育・社会教育の一層の徹底、二項対立的な議論は不毛、政治家の責任
- 石炭火力対策（CCS、CCUS） 対アジア技術協力
- EV促進？ 対中国政策

# 今後検討すべき問題点

- ・ 原発の安全性：原発攻撃、大地震対策、NIMBY、廃炉
- ・ **原子力の海洋活用**：①洋上浮体式原発 ②HLW処分場（離島？） ③原子力船、④海中ウラン捕集、etc
- ・ 原発新設のコスト：**経済性と安全保障** **コストがすべてではない！** **国策民営→国策国営？** **第7次エネ基**
- ・ 将来予測：人口減少・少子高齢化と電力需給関係、AI、DC普及でむしろ需要は増える？ 故に再エネと原発の必要性は増大。原発が要らなくなる日？

# 結論

- **安全** Safety →個人レベル
- **安心** Security →同
- **安定** Stability →国家レベル
- **安泰** Prosperity→同

**全国民が（エネルギー政策で）心を定めれば国は安泰**

今後国際情勢が激動し、エネルギー状況が益々厳しくなる中で、資源争奪競争に勝ち、日本の経済的繁栄を維持するためには、まずエネルギー自給率を高めエネルギー安全保障と国家安全保障の基盤を強化すること、そして、そのためには日本は今何をなすべきかを徹底的に考え直すことが肝要。

今こそ全国民的な議論を！ 日本人よ、頑張れ！

**ご清聴感謝**

私の意見は以下の本や論文で詳述されていますので、お暇な折にぜひご覧ください。

- 「日本の核 アジアの核」 (朝日新聞社刊、1997年)
- 「かけがえのない地球」 (日本総合出版機構、1972年)
- 「小池・小泉『脱原発』のウソ」 (飛鳥新社、2017年)
- 「『地球環境』概念の誕生と発展過程」 (岩波書店、1998年)
- 「**脱炭素社会実現への確かな道、再エネと原子力は平和共存で  
きる**」 (前編、後編) (Wedge Online, 2020年12月)
- 「**環境問題とエネルギー安全保障**: ストックホルム会議50周年  
に思う」 上、下 (Agora-Web, 2022年7月)

その他の論文は以下のURLで多数公表されています。

<http://www.kanekokumao.jp/>

ご意見、ご質問はいつでも歓迎です。

[kaneko@eeecom.org](mailto:kaneko@eeecom.org)